

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第55集

番屋前遺跡群

BAN YA MAE

番屋前遺跡 I・II

1997.3

株式会社 ヤマダ電機
株式会社 ほしまん
長野県佐久市教育委員会

番屋前遺跡 I・IIの調査について

番屋前遺跡群は佐久市中込原の広大な台地上の北東端にあります。水利に乏しく、国道141号バイパスや佐久市役所が建設されるまでは、広大な畑地でした。現在の新旧国道沿線は、店舗・住宅が密集しています。

原始・古代の集落は、この台地の縁辺に多くが発見されています。番屋前遺跡IIの付近は、ホテル一万里、西側のアパート調査時には何も検出されませんでした。バイパスの東側店舗の調査時には、中世頃の遺構がみつかっています。

今回調査された番屋前遺跡IIからは、小さな川もなく湿地もないこの台地上で予想もしなかった古い井戸が発見されました。

時代を考える資料が土鍋の小片だけで断定はできませんが、中世（今から400～500年ほど前）に掘られたものかと推測されます。

水を得るために手掘りで6mも深く掘られていました。大変な苦勞と労力が偲ばれます。



検出された深井戸を掘る（番屋前遺跡II）



番屋前道路1のM1号溝状遺構（北方から） 電車はJR小海線



番屋前道路1の井戸址とM1号・M2号溝状遺構（南方から）

例 言

1. 本書は、株式会社ほしまんが行う店舗建設、株式会社ヤマダ電機が行う店舗建設に伴う発掘調査報告書である。

遺構確認調査を実施し保護協議の結果、発掘調査を行った。

2. 調査委託者 株式会社ほしまん（番屋前遺跡Ⅰ）
株式会社ヤマダ電機（番屋前遺跡Ⅱ）
3. 調査受託者 長野県佐久市教育委員会
4. 遺跡名 番屋前遺跡群 番屋前遺跡Ⅰ（S BYMⅠ）
所在地 長野県佐久市大字猿久保字前原790-1, 791-1, 792-3, 785-10,
遺跡名 番屋前遺跡群 番屋前遺跡Ⅱ（S BYMⅡ）
所在地 長野県佐久市大字猿久保字番屋前896-1, 897-1・7, 899-1・4,
5. 調査期間・面積
- 番屋前遺跡Ⅰ
- | | | |
|------|-----------|------------------------------------|
| 調査期間 | 遺構確認調査 | 1996年（平成8年）6月5日 |
| | 発掘調査 | 1996年（平成8年）6月24・25日 |
| | 整理期間 | 1996年（平成8年）12月20日～1997年（平成9年）3月22日 |
| 調査面積 | 約1,100㎡ | |
| 開発面積 | 2,593.26㎡ | |
- 番屋前遺跡Ⅱ
- | | | |
|------|-----------|------------------------------------|
| 調査期間 | 遺構確認調査 | 1996年（平成8年）7月4・5日 |
| | 発掘調査 | 1996年（平成8年）7月26～8月1日 |
| | 整理期間 | 1996年（平成8年）12月20日～1997年（平成9年）3月22日 |
| 調査面積 | 約1,200㎡ | |
| 開発面積 | 2,737.53㎡ | |
6. 本書の執筆・編集は、林幸彦が担当した。
報告書作成分担 遺物実測 岩崎兼子
版下作成 小林よしみ
7. 本書及び番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱの関係資料等は、佐久市教育委員会で保管している。

凡 例

1. 遺構の略号は、土坑 (D)、溝 (M) である。
2. すべての挿図にはスケールを示してある。
3. 遺構の海拔標高は、水系標高を標高として記した。
4. 土層・遺物胎土の色調は、1988年版『新版 標準土色調』に基づいた。
5. 挿図の方位は真北を示す。

目 次

巻頭図版

例言・凡例

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 発掘調査の経緯と経過 1

第 2 節 調査の体制 2

第 3 節 調査日誌 2

第 II 章 遺跡の環境 3

第 III 章 遺構と遺物 5

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 発掘調査の経緯と経過

番屋前遺跡群は、通称佐久市の中込っ原の北東端部に位置している。この台地は、浅間火山の軽石流堆積物に覆われている。清津川に臨む断崖では、厚さ30mを測る。この浅間火山第一軽石流の上部には、その水成層が5m~10mに渡って堆積している。

今回、株式会社ほしまん（番屋前遺跡Ⅰ）、株式会社ヤマダ電機（番屋前遺跡Ⅱ）が店舗を建築することになった。いづれも、遺構分布調査を行うことになった。調査の結果、番屋前遺跡Ⅰでは溝状の遺構が2本、番屋前遺跡Ⅱでは溝状の遺構3本・土坑1基が確認された。

保護協議の結果建物のおよぶ範囲は記録保存調査を実施し、駐車場の部分はそのまま埋め戻すことになった。

発掘調査は、株式会社ほしまん（番屋前遺跡Ⅰ）、株式会社ヤマダ電機（番屋前遺跡Ⅱ）から委託された佐久市教育委員会が実施した。



第 1 図 番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱの位置図 (1:25,000)

第2節 調査体制

佐久市教育委員会埋蔵文化財課

教 育 長 依田 英夫

教 育 次 長 市川 源

埋蔵文化財課長 北沢 元平

管 理 係 長 棚沢 慶子 管 理 係 田村 和広

埋蔵文化財係長 大塚 達夫 埋蔵文化財係 林 幸彦 三石宗一 須藤 隆司 小林 真寿

羽毛田卓也 富沢 一明 上原 学

調 査 主 任 佐々木宗昭 森泉かよ子 調査副主任 堺 益子

調 査 員 岩崎 重子 岩下 亨介 大井 文雄 桜井 牧子 佐々木 正 佐々木久子

佐藤志げ子 島田 幹子 土屋 貞子 中島武三郎 中島 照夫 真嶋 保子

茂木 幸一 百瀬 将史

第3節 調査日誌

番屋前遺跡Ⅰ

1996年(平成8年)6月5日 遺構確認調査

6月24・25日 遺構掘り下げ・実測

・写真撮影

12月20日～1997年(平成9年)3月22日

遺物・図面整理、原稿執筆

版下作成・報告書刊行



番屋前遺跡Ⅰ

番屋前遺跡Ⅱ

1996年(平成8年)7月4・5日

遺構確認調査

7月26～8月1日 遺構掘り下げ・実測

・写真撮影

12月20日～1997年(平成9年)3月22日

遺物・図面整理、原稿執筆

版下作成・報告書刊行



番屋前遺跡Ⅱ

第II章 遺跡の環境

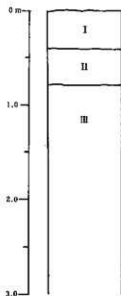
番屋前遺跡群の所在する通称中込っ原は、20～30mにおよぶ浅間火山第一軽右流に覆われている。中込っ原の東部の長野牧場から佐久市役所にかけての一带には、佐久市北部から小諸市にかけてみられるような顕著なものではないが、一部「田切り」地形がみられる。本遺跡群の東は、通称うとうの沢とよばれる「田切り」によって、その東側に展開する馬瀬口遺跡群や深堀遺跡群と囲われている。

今回の調査地点の土層は、I層耕作土、II層明黄褐色土の火山灰層、III層明黄褐色土の砂・礫層が観察できた。井戸土の掘り下げによりIII層は、地表下7mに達することが解った。

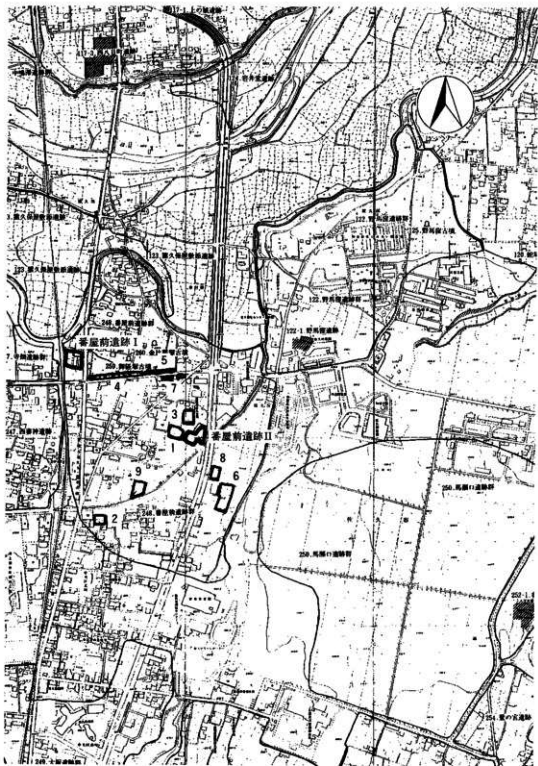
湯川・清津川・志賀川との比高10～30mを測るこの台地上の水利は、17世紀初頭に市川五郎兵衛により補完完成したと伝えられる三河田用水堰（四か村用水）を待たなければならない。これによって、横和・三河田・今井周辺で水田耕作が可能になった。しかし、三河田の集落から津上製作所および長野種畜牧場に至る広大な平地は、現在まで開田はなされていない。用水の通水以前は、本遺跡群の西方2.5km今井の集落東にみられる湧水を利用した水田だけの状況であった。

現在の三河田の集落は、三河田用水の完成後（17世紀初頭）に成立した。それ以前はこの台地の下、清津川流域にあったといわれている。1987年・1988年に発掘調査された梨の本遺跡I・II、さらに、本年度調査された梨の本遺跡IIIでは、14・15世紀の集落が検出されており三河田集落との関わりという点で注視されよう。

本遺跡群では、渠道改良事業・店舗建設・共同住宅建築等に関わり、試掘調査・立会い調査が9地点において実施されている。ほとんどの地点で、遺構・遺物の検出はされなかったが、「田切り」の縁辺に位置する番屋前遺跡群6において、平安時代と思われる竪穴住居址2軒が発見されている。周辺遺跡では、北東300mの野馬窟遺跡群野馬窟遺跡で弥生時代後期初頭の竪穴住居址2軒等が検出されている。さらに、北東方へ1,000mの蛇塚B遺跡群I・II・III・野馬久保遺跡では、平安時代の竪穴住居址33軒等が発見されている。南東1,000mの市側を臨んだ台地上には、学史上でも著名な大規模な和田上遺跡群が存在する。縄文時代前期、弥生時代中期・後期、古墳時代、平安時代の複合遺跡である。



第2図 番屋前遺跡II
層序基本図



第3図 周辺遺跡分布図 (1:7,500)

第III章 遺構と遺物

第1節 番屋前遺跡 I

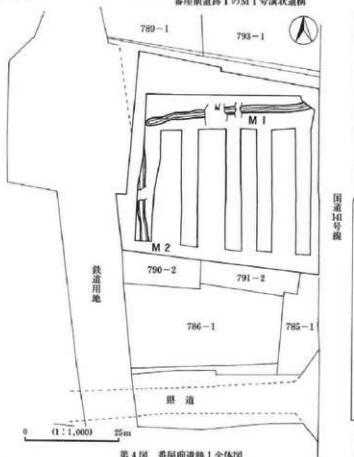
番屋前遺跡 I は、番屋前遺跡群の北西端に位置し、標高は695mを測る。一段下の湯川の河岸段丘上にある標高687mを測る猿久保屋敷添遺跡からは、古墳時代から平安時代の竪穴住居址9軒等が検出されている。また、今回の調査地点の東方150mには、御経塚古墳・金比羅塚古墳がある。遺構確認調査でみつかった溝状遺構2本の調査を実施した。

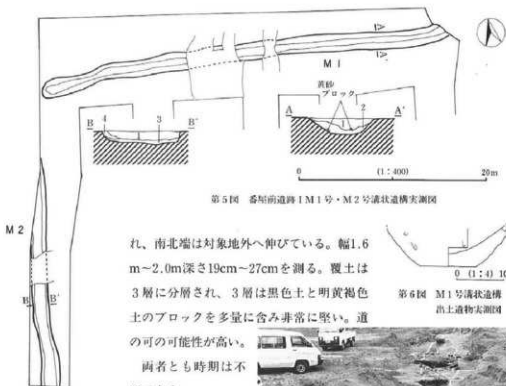
M1号溝状遺構は、調査区の北端に位置し、東端は調査対象地外へ伸びている。幅1.2m～2.0m 深さ29cm～53cmを測る。覆土は1層の黒褐色土、2層の明黄褐色土の小ブロックを少量含む黒褐色土に分層された。底面は、軟弱であり、流水の形跡なく、西に向かって緩く傾斜する。遺物は、第6図の縄文時代中期後葉曾利式期の深鉢底部片と同時期の胴部片数点、黒曜石の砕片2点が出土した。

M2号溝状遺構は、調査区の西端から検出さ



番屋前遺跡 I の M1 号溝状遺構

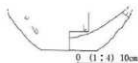




第5図 番塚前遺跡1M1号・M2号溝状遺構実測図

れ、南北端は対象地外へ伸びている。幅1.6m~2.0m深さ19cm~27cmを測る。覆土は3層に分層され、3層は黒色土と明黄褐色土のブロックを多量に含み非常に堅い。道の可の可能性が高い。

両者とも時期は不明である。



第6図 M1号溝状遺構出土遺物実測図



M1号溝状遺構（東方から）

M2号溝状遺構（北方から）

第2節 番屋前遺跡II

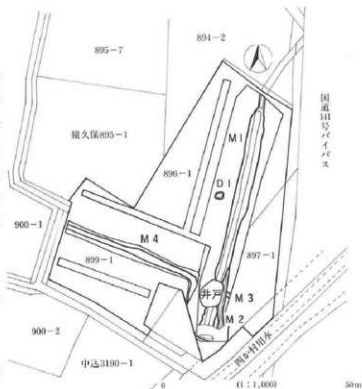
番屋前遺跡IIは、番屋前遺跡群のほぼ中央に位置し、標高は693mを測る。周辺は、9地点が試掘・立会調査調査が行われているが、本調査地点の南東200mにある番屋前遺跡6で平安時代と思われる竪穴住居址が確認されているだけである。

今回の調査では、井戸址1基、溝状遺構4本、土坑1基が検出された。

1) 井戸址

本址はM1号溝状遺構を破壊している。

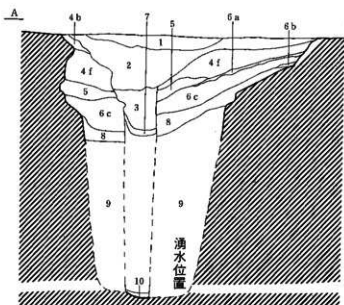
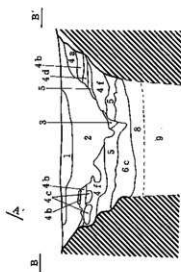
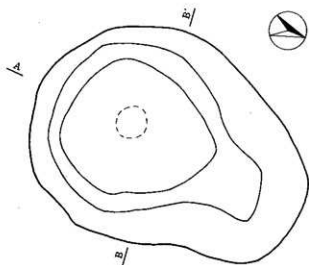
掘り方の上場は、南北7.6m東



第7図 番屋前遺跡II全体図



井戸址（東方から）



- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質石り。
- 2層 赤褐色土 (10YR2/3) 炭酸子少量含む。
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3) 砂質土。
- 4層 色調は赤褐色 (10YR2/3) を基調とし、砂質土である。
- 4a層 暗褐色土 (10YR3/4) 褐色土・暗褐色土・砂のプロック。
- 4b層 暗褐色土 (10YR3/4) 砂、0.5-1cm次の円礫多量に含む。
- 4c層 暗褐色土 (10YR4/6) 褐色土のプロック多量、堅い。

- 4d層 暗褐色土 (10YR3/4) 砂質土。黒褐色土を帯状に含む、0.5-1cm次の円礫を多量に含む。
- 4e層 黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。
- 4f層 黒褐色土 (10YR2/3) 砂、0.5-2cm次の円礫多量に含む。
- 5層 暗褐色土 (10YR3/3) 内側は砂質土。外側は褐色の砂と暗褐色土プロック多量。
- 5a層 暗褐色土 (10YR3/3) 褐色土の小プロック少量。
- 5b層 暗褐色土 (10YR3/3) 砂、0.5-2cm次の円礫多量に含む。
- 6層 暗褐色土 (10YR3/3) 堅い。
- 7層 暗褐色土 (10YR3/3) 砂。
- 8層 暗褐色土 (10YR3/3) 砂。
- 9層 暗褐色土 (10YR3/3) 砂と暗褐色土。
- 10層 暗褐色土 (7.5YR2/2) 0.3-0.5cm次の粗い砂、層の下部は、浅層部 粘石流の埋積物となり、この地点より湧水がみられる。

第8図 井戸址実測図



井戸址上部の土層堆積状況（北方から）



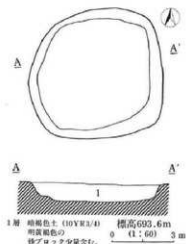
井戸址3層出土の獣骨（西方から）

西6.0mを測る軌立貝形を呈し、下場は径2.5mを測る円形と思われる。深さは6.9mを測る。3mの深さまで人力で掘り下げたが、砂層に掘り込まれており崩落の危険があるため下部は重機にて掘り下げた。1～3・7層は、井戸の廃棄後の自然堆積である。4層～9層は、砂・砂質土土が主体であり、素はりのままでは使用不可能であり、木の枠等が考えられるが、その痕跡など検出することはできなかった。湧水は、全体層序Ⅲ層と浅間第一軽石流との境からみられた。北側にテラス状の堅い面がみられ、汲み上げ場所かとも思われる。遺物は1層中から土鍋の小片が1片と3層中から馬1頭分の獣骨が出土した。

明確な時期は不明である。



井戸址確認面より7m下の湧水



第9図 D1号土坑実測図



D1号土坑（北西方から）

2) 溝状遺構

溝状遺構は4本検出し、M1号～M3号を調査した。M1号は南北に伸びるが、井戸址の南で向きを東に変えている。幅4m前後深さはおおむね1m前後であるが、北端は80cmの段差を持って急に高くなっている。井戸に向けて緩やかに傾斜する。ただし、井戸坪とは明確に重複関係が把握でき、期的には本址が旧い。底面に明確な流水の痕跡はない。遺物は、段差のみられた付近から馬頭骨が出土しただけである。

M2号・M3号とM1号溝状遺構との新旧関係は明確に捉えられなかった。M4号溝状遺構は、東西に伸びていて、井戸址付近で南に向きを変えているいづれも時期は、不明である。

3) 土坑

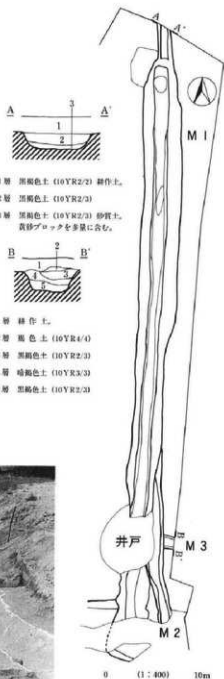
本址は、M1号溝状遺構の西側より検出された。

南北2.16m東西2.12mの不整な方形を呈し深さ18～27cmを測る。遺物は、出土しなかった。

遺構の時期等は、不明である。



M1号・M2号・M3号溝状遺構、井戸址、D1号土坑（南方から）



1層 黒褐色土 (10YR2/2) 耕作土。

2層 黒褐色土 (10YR2/3)

3層 黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土、
灰砂ブロックを多量に含む。

1層 耕作土。

2層 黒色土 (10YR4/0)

3層 黒褐色土 (10YR2/3)

4層 暗褐色土 (10YR3/3)

5層 黒褐色土 (10YR2/3)

第10図 M1号・M2号・M3号
溝状遺構実測図

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- | | | | |
|------|-------------------------|------|--|
| 第1集 | 『金井城跡』 | 第30集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1992』 |
| 第2集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1990』 | 第31集 | 『山法師遺跡A・筒村遺跡A』 |
| 第3集 | 『石附窯址III』 | 第32集 | 『東ノ瀬』 |
| 第4集 | 『大ふけ』 | 第33集 | 『聖原遺跡VII・下曾根遺跡I・前幕部遺跡I』 |
| 第5集 | 『立科F遺跡』 | 第34集 | 『西一本柳遺跡I』 |
| 第6集 | 『上曾根遺跡』 | 第35集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1993』 |
| 第7集 | 『三貫畑遺跡』 | 第36集 | 『蛇塚B遺跡III』 |
| 第8集 | 『瀧の下遺跡』 | 第37集 | 『西一本柳遺跡II・中西ノ久保遺跡』 |
| 第9集 | 『国道141号線関係遺跡』 | 第38集 | 『南下中原遺跡II』 |
| 第10集 | 『聖原遺跡II』 | 第39集 | 『中屋敷遺跡』 |
| 第11集 | 『赤座垣外遺跡』 | 第40集 | 『寺畑遺跡』 |
| 第12集 | 『若宮遺跡II』 | 第41集 | 『曾根新城I・II・III・IV
上久保田向遺跡I・II・V・VI・VII
西竹根遺跡II・III』 |
| 第13集 | 『上高山遺跡II』 | 第42集 | 『寄山古墳・中栗塚・勝負沢』 |
| 第14集 | 『栗毛坂遺跡』 | 第43集 | 『権現平遺跡』 |
| 第15集 | 『野馬久保遺跡』 | 第44集 | 『寺添遺跡』 |
| 第16集 | 『石並遺跡』 | 第45集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1994』 |
| 第17集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1～3月) | 第46集 | 『濁り遺跡』 |
| 第18集 | 『西曾根遺跡』 | 第47集 | 『上芝宮遺跡V』 |
| 第19集 | 『上芝宮遺跡』 | 第48集 | 『池端城跡』 |
| 第20集 | 『下壘端遺跡III』 | 第49集 | 『根々井芝宮遺跡』 |
| 第21集 | 『金井城跡III』 | 第50集 | 『藤塚遺跡III』 |
| 第22集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1991』 | 第51集 | 『寺添遺跡・中屋敷遺跡II』 |
| 第23集 | 『南下中原・南下中原遺跡』 | 第52集 | 『坪の内遺跡』 |
| 第24集 | 『上壘端遺跡』 | 第53集 | 『円正坊遺跡II』 |
| 第25集 | 『上久保田向IV』 | 第54集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1995』 |
| 第26集 | 『藤塚古墳群・藤塚II』 | | |
| 第27集 | 『上久保田向III』 | | |
| 第28集 | 『曾根新城V』 | | |
| 第29集 | 『山法師遺跡B・筒村遺跡B』 | | |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第55集

番原前遺跡群 番屋前遺跡I・II

長野県佐久市番原前遺跡群番屋前遺跡I・II発掘調査報告書

1997年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒384-01 長野県佐久市大字中込3056

埋蔵文化財課

〒385 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 樺 <いちい>

